

# TVセッター

## 取り付け説明書 TVST-GP103

### 個人取り付けについて

#### ご注意



当商品は、DIY（日曜大工）が得意な方でしたら、慎重に作業すれば設置可能です。しかし、組立・取り付けの不備による事故について保証はございませんので、作業に際しましては十分にご注意くださいますようお願い申し上げます。  
基本的には、お近くの内装業者・電設業者様へ依頼をされる事をお勧めします。

**組立不良・取り付け不良、および天災等による事故等については、一切の保証はございませんので、ご了承ください。**

※少しでも取り付けに疑問が生じた場合は、必ずお近くの内装業者・電設業者様にお尋ねください。

### 組立設置上のご注意

#### ご注意



テレビと金具を合わせると相応の重量になります。強度のある壁や間柱（壁裏に通っている柱）にしっかりと設置してください。  
設置中・設置後共に、怪我やお部屋にキズを付ける事の無いよう、ご注意ください。

- ボルトやワッシャー等のねじ類を含めた部品の取り付けは、正確に行ってください。
- 設置にあたっては、十分な作業スペースを確保してください。
- 以下の場所には設置しないでください。
  - ・湿気や温度の変化の激しい場所
  - ・人がぶら下がったり、寄りかかったりするような場所
  - ・振動などがある不安定な場所
- 電源コードや配線に傷を付ける事の無いように注意してください。火災等、事故の原因になります。

**商品には、基本的な必要ネジ類が付属されています。しかし、壁の状態によって別途、アンカー等が必要なケースがあります。**

**その場合、お客様（販売店・施工店様）がご用意の上、確実な設置を行うようお願いいたします。**

※付属のネジ類を使用した設置の強度に少しでも不安を感じた場合、ただちに作業を中止し、上記の対応をしてください。

### 設置後のご注意

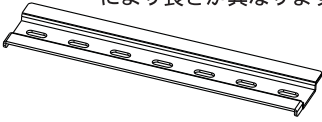
- 定期的にネジ類の緩みが無い、壁への取り付けにガタが出ていないか確認してください。

### 設置にあると便利な道具

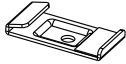
- 1) 間柱センサー - 壁裏にある間柱を見つけるのに便利です。細い針やキリを壁に刺して代用する事も可能です。
- 2) ドライバー - ネジ頭のサイズに合わせて、数種類があると便利です。
- 3) ドリルドライバー - 電動ドライバーです。手回しのドライバーでも設置可能ですが、あると非常に便利です。
- 4) メジャー - 床からの距離を測ったり、金具の水平を取る場合などに使用場合があります。
- 5) ペン - 壁にネジを打ち込む位置を確定した時にマーキングします。テープ等でも代用可能です。
- 6) 柔らかい布 - 設置の過程で、床やテーブルなどにテレビを置く事になります。下に敷いてテレビを保護します。

# 部品リスト

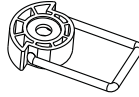
※お買い上げいただいたサイズにより長さが異なります。



a 壁面プレート部品 ×1



b テレビフックブラケット ×2



c ピンスタンド型  
ブラケット ×2

※部品ナンバー d は、  
付属しません。



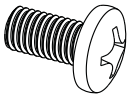
e M4 - 12ボルト ×4



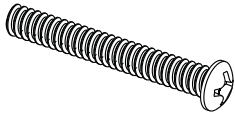
f M5 - 12ボルト ×4



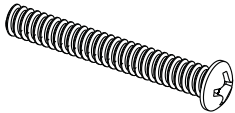
g M6 - 12ボルト ×4



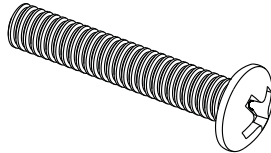
h M8 - 16ボルト ×4



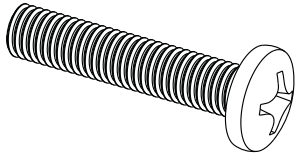
i M4 - 30ボルト ×4



j M5 - 30ボルト ×4



k M6 - 35ボルト ×4



l M8 - 40ボルト ×4



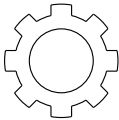
m M4 ロックワッシャー ×4



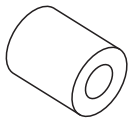
n M5 ロックワッシャー ×4



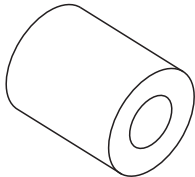
o M6 ロックワッシャー ×4



p M8 ロックワッシャー ×4



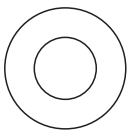
q M4/M5 スペーサー ×4



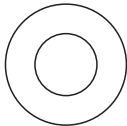
r M6/M8 スペーサー ×4



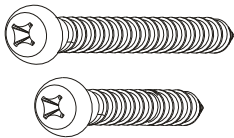
**使用しません**  
s M4 ワッシャー ×8



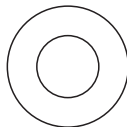
t M5×16 ワッシャー ×4



y M6/M8 ワッシャー ×4



u 壁面ボルト  
Sサイズの場合 2 本  
M・L サイズの場合 4 本



v 壁面ボルトワッシャー  
Sサイズの場合 2 枚  
M・L サイズの場合 4 枚

壁の状況にあわせてご利用ください。

## ステップ1

# テレビブラケットのテレビへの取り付け

テレビの背面に凹凸がある場合、下段にお進みください

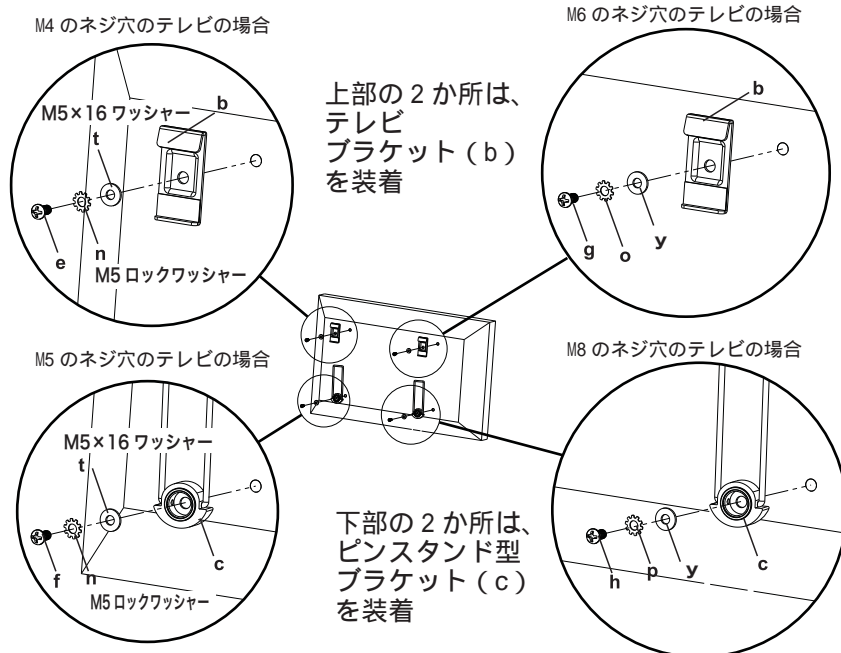
左右のテレビフックブラケット (b) とピンスタンド型ブラケット (c) をテレビの背面に、それぞれ取り付けます。上下の確認をしてください。M4、M5、M6、M8 のサイズのネジ穴のテレビに合うようボルトが付属しています。お手元のテレビに合わない場合、ご面倒ですが別途ご用意ください。ワッシャー、ロックワッシャーを使用して固定します。

### ご注意



壁にネジ穴を開ける前に必ずテレビとテレビブラケットの適合確認・組立を行ってください。

万一、テレビとテレビブラケットがどうしても取り付けできない場合、テレビの壁掛けが出来ません。

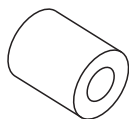


## ステップ1

# テレビの背面に凹凸がある場合

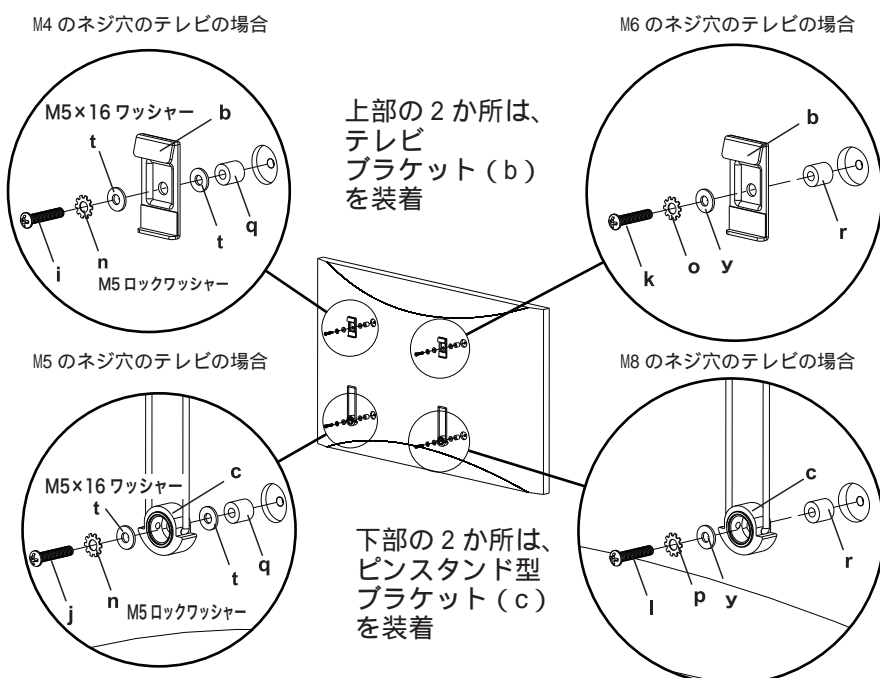
テレビの背面に凹凸があったり、曲面になっている場合、付属のスペーサー（黒いチューブ）を間にに入れて設置します。取り付けの際に左右上下の確認をしてください。

M4、M5、M6、M8 のサイズのネジ穴のテレビに合うよう、それぞれ2種類の長さのボルトが付属しています。お手元のテレビに合わない場合、ご面倒ですが別途ご用意ください。ワッシャー、ロックワッシャーを使用して固定します。テレビブラケットのネジ穴は複数開いています。ブラケットが最もテレビの中央にくるネジ穴を選ぶと良いでしょう。



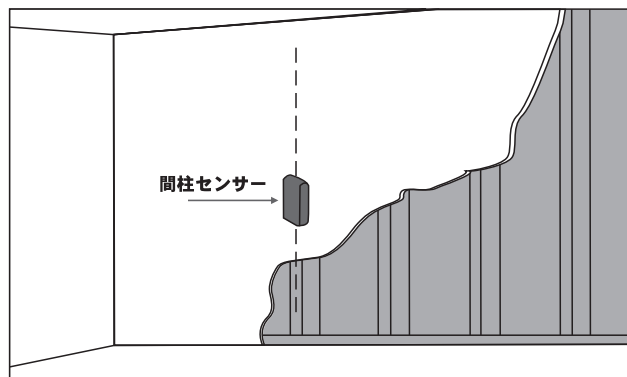
### スペーサー

黒いプラスチックのチューブです。これを金具とテレビの間に入れる事で、テレビ背面の凹凸や曲面に対応します。

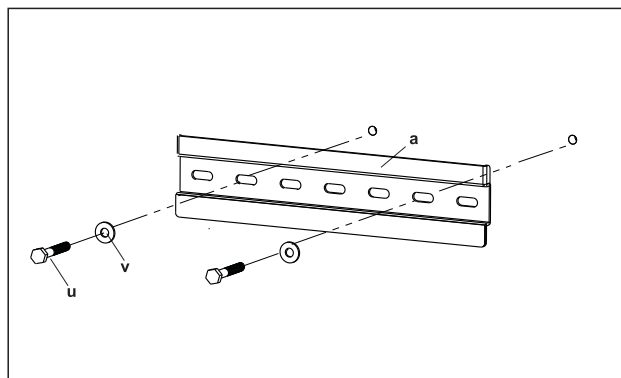


## ステップ2-1 間柱スタッド（補強不要）壁への取り付け

石膏ボード等の壁の場合、壁の裏側に間柱（スタッド）があれば設置可能です。くれぐれも間柱が無い石膏ボードへの設置はお控えください。壁の強度不足で落下の危険が生じます。  
間柱センサー（壁裏に間柱があるかを電氣的に調べる道具です。ホームセンター等で比較的安価で販売されています）やキリ等で壁裏の間柱を見つけ、そこにドライバー（電動ドライバー）で壁面プレート（a）を壁に取り付けます。



間柱（スタッド）センサーやキリ等を使って、石膏ボード等の裏にある間柱を見つけましょう。間柱に対して壁面ボルト（u）を打ち込まないと十分な強度が得られません。



付属の壁面ボルト（u）で壁面プレート（a）を壁に取り付けます。

### ご注意

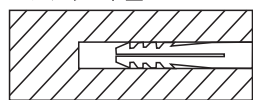


少しでも設置に違和感を感じた場合、設置を中断し専門業者に相談してください。  
施工される壁の状態によって付属の壁面ボルトが合わない場合もございます。  
その場合は、実際の壁に即したネジ類を別途ご用意ください。

## ステップ2-2 RC 構造（コンクリート）壁への取り付け

テレビを取り付けたい位置を決め、壁面プレート（a）をコンクリート壁に固定します。プレートが水平になるように石材用ドリルを用いてネジ穴を壁に開けます。

コンクリート壁



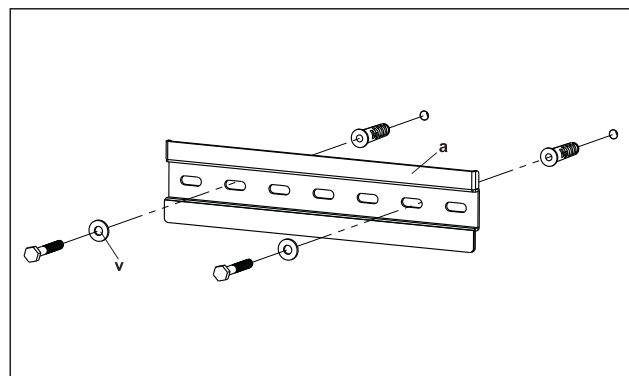
アンカーを壁と同一レベルまで押し込みます



コンクリート壁へのお取り付けの場合、ネジ・アンカー等はお客様でご用意ください。

左図のように、コンクリート壁にコンクリートアンカーが入る穴をあけます。コンクリート壁にアンカーがスッポリと埋まるように押し込みます。緩みやガタツキが少しでもある場合は、設置を中断して、内装業者・電設業者様に相談してください。

下図を参考にして、壁面ボルトと壁面ボルトワッシャーを使用して壁面プレート（a）を壁に固定します。



### ご注意

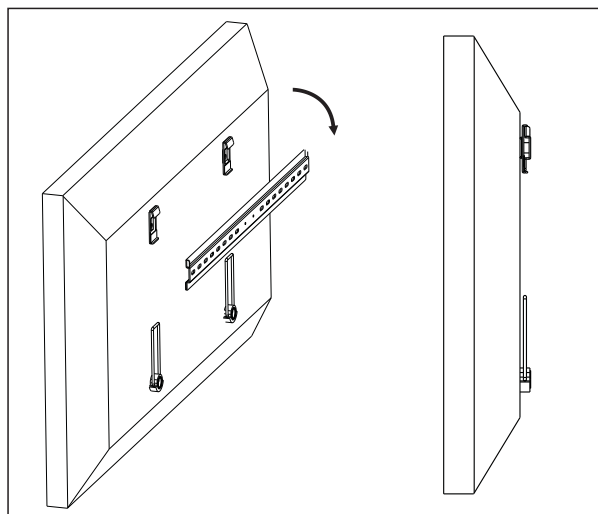


少しでも設置に違和感を感じた場合、設置を中断し専門業者に相談してください。

施工される壁の状態によって実際の壁に即したネジ、アンカー類を別途ご用意ください。

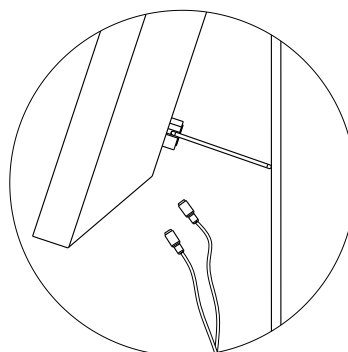
## ステップ3 テレビと壁面プレートの取り付け

テレビブラケット（b）の上部を壁面プレート（a）の上部に引っ掛けます。ブラケットとプレートについているマジックテープが効いて、取り付けが完了します。



### 配線交換時

ピンスタンド型ブラケット（c）のピンを起こして、空間を作って作業します。



### ご注意



最終的にしっかりと組立・取り付けが行われているか確認してください。  
少しでも不安点があった場合、お近くの内装業者・電設業者様にチェックの依頼をしてください。

## ここがポイント薄型設置

最新大手メーカーの薄型テレビ金具も1本バータイプでの設置が行われています。より薄い設置を実現する為の構造です。

壁面プレートが確実に壁面に固定され、テレビブラケットをしっかりと引っ掛けてあれば、落下の危険はありません。

## おススメは側面配線

配線は、側面配線（テレビの側面にある端子を使用してケーブルを設置）をお勧めします。なるべく付属のスペーサーを使わないように配線を工夫して「究極の薄型設置」を楽しんでください。